



## CLUB WEEKLY No.2657

国際ロータリー会長  
ホルガー・クナークロータリーは  
機会の扉を開く

会長 斉藤 勝俊

「会員基盤、そして、  
つながりを維持・強化  
しよう」

## 出席報告

9月17日

先週(9/17)の出席者数:28名(3)

9/17出席率:54.90%

※( )内数字は出席免除会員の出席者数  
会員:59名(免除11名)

	8/27	9/3	9/10
HC出席	31(3)名	31(2)名	30(2)名
MU出席	5(0)名	5(1)名	5(1)名
修正出席率	70.59%	70.59%	68.63%

## 我らの生業

我等の生業 さまざまなれど  
集いて図る 心は一つ  
求むるところは 平和親睦  
力むるところは 向上奉仕  
おゝロータリアン 我等の集い

## 月間テーマ

基本的教育と識字率向上月間  
ロータリーの友月間例会日:2020年9月24日  
(令和2年9月24日)

## 今日の例会

2020年9月24日

## 来週の例会

- 本日の卓話  
「ロータリー雑感」  
岡田 耕治 君

- 10月1日(木)  
卓話「米山奨学事業の意義について」  
北川 忠嗣米山奨学委員長  
松田 振興 様(大阪城南RC)

- 今日の歌 「我等の生業」

- 例会後、10月度定例理事会

## 簡ガバナー卓話

ホルガー・クナークRI会長テーマ

「Rotary Opens Opportunities」～ロータリーは機会の扉を開く～

クナーク会長は、このテーマについて、ロータリーがクラブに入会するというだけではなく、「無限の機会への招待である」という思いを込めた、と語っておられます。  
「奉仕プロジェクトを通じて会員自身や受益者の人生をより豊かにするための道を開くのがロータリーである」と力説され、「ロータリーは、リーダーシップの機会、奉仕のアイデアを実行に移すために世界を旅する機会、そして生涯続く友情の絆を築く機会を与えてくれる」とも述べられました。  
そのうえで、「私たちのあらゆる活動が、どこかで、誰かのために機会の扉を開いています」と強調されました。

このRI会長のテーマに基づき、2020-21年度第2660地区の年次目標を6項目掲げました。

## 1.会員基盤の強化

年代、職業、男女の別いずれにおいても、多様な会員を受け入れる柔軟性と、ロータリーの基本的な価値観を再認識し、クラブのあり方を方向づける「クラブビジョン」を作成しましょう。問題意識を共有し、会員の退会を防ぐ姿勢を、だれもが持ち続ける必要があります。

## 2.ポリオの根絶

現在、ポリオウイルス株の2型、3型は根絶され、あとは1型だけです。また、ポリオの常在国は、アフガニスタンとパキスタンの2か国だけとなりました。ナイジェリアは発症例が3年間報告されておらず、今年中に根絶の宣言がされるでしょう。ポリオの発症がどこかで起きている限り、感染の危険は世界中の子どもに及ぶことになります。世界中で根絶されるまで活動を続けていきましょう。

東大阪東ロータリークラブ

HP: <http://www.higashiosaka-eastrc.jp>

会長: 斉藤 勝俊

創立: 昭和40(1965)年3月4日 例会場: ホテルセイリユウ 例会: 毎週木曜日 12:30～

幹事: 浅浦 哲夫

事務局: 〒579-8012 東大阪市上石切町1-11-12 ホテルセイリユウ302号室

会報資料担当: 田中 邦夫

TEL072-985-0189 FAX072-985-0577 E-mail:higashiohrc@air.ocn.ne.jp

### 3.青少年の活動を支援

未来を担う若い世代を支援し、リーダーを育てることは、ロータリアンの使命です。当地区は、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、ライラ、米山奨学生、ロータリー学友などの青少年プログラムに積極的に取り組んでいます。ロータリアンと青少年がともに活動できる奉仕の機会を、さらに作っていきましょう。

### 4.ロータリー財団活動の推進

ロータリー財団は、ロータリーの奉仕プロジェクトを支える柱です。年次基金は、3年後の奉仕活動の資源となり、恒久基金は将来のロータリー活動を担保し、ポリオ基金はウイルスとの闘いの象徴です。ご理解いただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

### 5.米山記念奨学会活動の推進

日本と海外との懸け橋となる米山奨学生の支援をお願いします。4月から継続を含めて、49名の米山奨学生が、皆さんのクラブでお世話になっております。未来を担う若い力を応援してください。

### 6.IT化の推進と公共イメージの向上

IT化は避けては通れません。My Rotaryの登録、クラブセントラルの活用をぜひ、よろしくお願いいたします。ロータリーについて知ってもらうための一番の広告塔は、ロータリアン自身です。会員以外の人にも、ロータリーに親しんでもらう機会をつくっていきましょう。

私は、地区スローガンを決定するにあたって、3つのことを考えました。

#### ① 基本の再認識を

ロータリーは変わったのか、という声をよく耳にしますが、私はそうは思いません。2019年-20年度の新しい標準ロータリークラブ定款は、表現が多少異なっているとはいえ、基本となる考え方は従来と同じです。それは、すなわち、四つのテスト、超我の奉仕、中核的価値観といったロータリーの価値観です。

そして、ロータリーは、こうした価値観を共有する人たちの集まりであり、だからこそ、確かな信頼関係が築かれているのです。今こそ、ロータリーの基本を再認識しましょう。

#### ② 誇りと自信を持って

ロータリーで、私は、多くの尊敬できる先輩の皆さん、多くの信頼できる友人を得ることができました。一人ではなかなかできない奉仕活動に取り組むことができ、その活動を通して、大きな感動を得ることもできました。こうした素晴らしい集まりの会員であることに改めて意識を向け、ロータリアンとしての誇りと自信を、皆さんに持っていただきたいと思います。

#### ③ 未来をつくる

時代に対応する多様性、柔軟性、適応力がなければ、ロータリーの未来を創っていくことはできません。例えば、SF映画のように、過去に戻って、今を変えることはできないのです。

しかし、未来は、私たちの手の中にあります。私たちが、未来をつくっていくことができるのです。

私は、こう呼びかけたいと思います。

ロータリーの基本を再認識してください。

ロータリアンとしての誇りと自信を持ってください。

そして、一緒にロータリーの未来をつくっていきましょう。

そこで、地区スローガンは

「Back to the Basics and Fly to the Future」

(ロータリーの基本に戻って、新しい未来へ)

の意味を込めて

BACK, To the FUTURE

～基本に戻って、未来へ～

とさせていただきます。

これから一年間、クラブの皆さまとともに、基本を見つめ直して考え、歩んでまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



ロータリーは機会の扉を開く

## 幹事報告

浅浦幹事

《これからの予定》

【1】 9/26(土)クラブ米山奨学委員長・カウンセラー研修会(北川米山奨学委員長出席)

【2】 10/1(木)例会後、10月度定例理事会

【3】 10/10(土)地区公共イメージ向上セミナー

＜連絡事項＞  
【1】 10月より例会卓話を再開させていただきます。よろしくお願いいたします。

## 委員会報告

◎米山奨学委員会

北川委員長

この度、山田会員にご協力いただきました。有難うございました。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 会員コラム

田原 さおり

『夏子の冒険』 三島由紀夫(角川文庫)



(あらすじ)

ある朝突然に「あたくし修道院へ入る」と宣言した夏子、二十歳。祖母、母、伯母に付き添われ函館の修道院へ向かう列車の中で、情熱的な目をした毅に出会う。仇の熊を追っているという毅についていくと決めた夏子は....。

\*\*\*

学生時代、好んで読んでいたのは、太宰治や芥川龍之介でした。しかし、恩師には「太宰なんてものは、若い頃に罹る‘はしか’のようなものだ。」と言われ、何を言っているのだろうか？この先生は…と意味が分かりませんでした。二十歳の女子大生(わたしですよ笑)は、やがて結婚し、母になり、ゆっくり読書をする時間を再び手に入れたのは、その二十年後でした。軽い短編や分かりやすいミステリー小説から肩慣らしを始め、久しぶりに大好きだった太宰治を読んでみたところ...全く面白くなかったのです。いつの間にか文豪達の年齢を超え、新たな価値観で暮らし、若いころよりも感性が鈍っていたか

らです。これにはショックを受けました。が、そんな時出会ったのが三島由紀夫の『夏子の冒険』でした。ある雑誌には『さすが三島。ラブコメを書かせても超一流だ。』と掲載されていました。この本の初出は1951年、70年前で三島由紀夫は26歳でした。今すぐアニメ化されても、ドラマ化されても、きっと面白いだろうと思えるほど、主人公の夏子はもちろん、脇の登場人物まで生き活きと描かれています。小説の中で正に生きている登場人物達の活躍は二十歳の女学生が五十歳になっても楽しめる小説。三島作品には、そんな「普通の価値」が詰まっていると思いました。また、学生時代‘はしか’のように夢中で読み漁った作品達には、学生だからこそ、理解できる価値が確かに存在するのだと思います。学生の感性で楽しめる作品にはもう出会えませんが、年齢を重ねたからこそその感性で読める作品にこれから出会えると良いなと思います。

## 一口情報

会員研修・会員選考委員長  
井上 家昌

### ロータリーの目的

私達がロータリーに入って、活動をしている目的はロータリーの基本精神である「奉仕(サービス)という理念」を理解して、実行するためにということになります。「奉仕(サービス)という理念」については私達のクラブ定款第5条(本年度クラブ活動計画書の44ページをご覧ください)に出てまいります。

「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には次の各項を奨励することにある。(以下省略)」とあります。

それでは、この中の奉仕(サービス)とは何かについては、第2660地区パストガバナー、元RI理事、菅生浩三様は次の様に話されています。「人は自分で生きていくものではありませんが、同時に他人のおかげで生きることができるものであります。人は物心ともに、他人様とともに社会の中でしか生きられない存在で、しかも心を持った精神的な存在であります。この『サービス』という考え方は人間と社会の本質に由来する人間存在の基本を流れる真理であります。そこでロータリーはシエルドンやコリンズ(9月17日齊藤会長の“会長の時間”参照)のモットーの考え方の流れに沿って、この『サービスという考え方』“The Ideal of Service”を一生懸命に提唱して、その実行に努めています。ロータリーは人間社会とともに永遠であり、その基本は、不変といわれる所以でありましょう。」